概要

塩見 高央

本論文では、リオ五輪という大きなニュースがある場合にテレビ局(NHK、日本テレビ、テレビ朝日、TBS)がどのような意図を持って報道するかといった特徴を、データをもとに明らかにする。

私がリオ五輪のニュース分析をテーマに設定した理由は二つある。一つ目は、2016年1月に発生したスキーバスの転落事故だ。事件発生後、次第にニュースの焦点が移っていった。

日本のニュース番組はどの局も同じ内容だと言われるが本当にそうだろうか。

二つ目は、2015年から16年にかけてニュース番組のキャスターが立て続けに降板を発表した。この事実に対して、今この時期にニュース番組を分析し、現在のニュース番組の傾向を明らかにする意義を感じた。

対象番組は、公共放送であるNHKの「ニュースウオッチ9」、日本テレビの「NEWS ZERO」、テレビ朝日の「報道ステーション」、TBSの「NEWS23」である。フジテレビの「ユアタイム」は、以前同じ放送枠だったスポーツ番組を継承しているため、今回のテレビ局ごとの比較検討にはそぐわないと感じ、対象に含めなかった。同様の理由で、テレビ東京の「ワールドビジネスサテライト」は経済ニュース番組のため、対象に含めなかった。

分析期間は、リオ五輪が開催された8月5日から閉会する8月22日までの18日間であるが、土曜日と日曜日は対象番組の放送がないため12日間の放送を分析する。分析方法としては、量的分析と質的分析の両方を行う。量的分析では、リオ五輪に関するニュース(以下、リオ五輪ニュース)とそうではないニュースの割合、リオ五輪ニュースの中で各競技や開会式・閉会式の割合を調べる。質的分析では、各テレビ局がリオ五輪をどのようなものとして捉えているのか、伝え方や伝える内容にどのような違いがあるのかを調べる。

各局の特徴を明らかにし、最後には日本のニュース番組が抱える課題、向かうべき姿を考察できれば幸いである。